

# AMDAの挑戦

>3<

相互扶助の世界  
SOUGO-FUJIO



岡山県の中心に位置する御津郡加茂川町。人口六千七百人の山あいの町

国際貢献に限らず、町単独で出来ることは限られていた。片山町長は「AMD Aをはじめ、さまざまな民間団体、NGOとのお付き合いがあればこ

のノウハウもなかった」という町は即座にAMDA本部と連絡をとり、現地までのルートと非常食が行き届いていない地点の情報を得た。さらに、一月三十日にはAMDAの菅波茂代表の要請を受け、各課からボランティアを募り、長田区の被災地に入浴車を派遣。二月十七日までに延べ三百七十一人の被災

者が入浴した。「何もできずに帰るボランティアが多いなか、効果的な活動ができた」。片山町長はAMDAとの連携を成功理由に挙げ

て週三日、午後七時から翌朝八時まで急患に対応している。今ではなくてはならない存在（亀森浩・同センター所長）だ。行政の枠を超えて活動するNGOと自治体のネットワーク。片山町長は「阪神大震災で行政とNGOとの協調の必要性が

証明された。行政で自己完結していたら、スピードは期待出来ないし非効率」と力説する。  
× × ×  
次回は震災でボランティア活動に参加した自治体職員の声を取り上げる。

(一色 昭宏、つづく)

# 自衛隊のボランティア

は「国際貢献」を町政の柱の一つに掲げている。一九九四年、全国初の国際貢献条例を制定し、AMDAなど民間六団体が医療、教育救済活動を行う旧ユーゴスラビアに職員二人を派遣した。過疎の町と国際貢献。一見、そぐわないことに見えるが、そこから町民の誇りが生まれ、町おこしにつながっている。「でも、

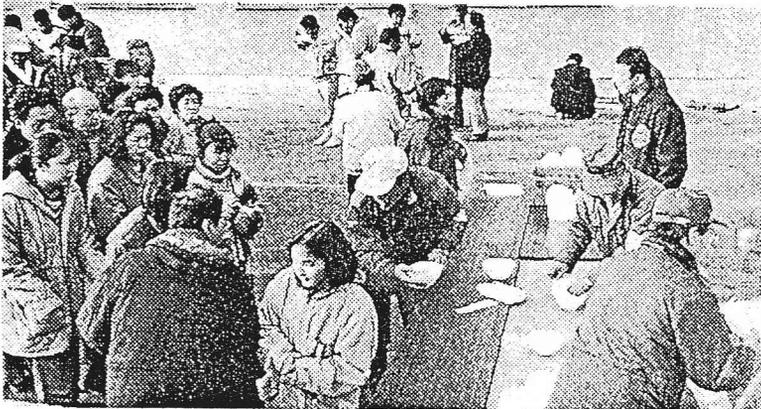
そ実行できる。行政とNGOはお互い、持ちつ持たれつの関係です」。阪神大震災で同町の活動は素早かった。発生翌日の十八日、町民のボランティア団体「K10」メンバーと町職員が炊き出しを実施。翌十九日午前には役場を出発、神戸市長田区で夕食と翌日の朝食、昼食を提供した。当初、「支援を決めたが

両者は地域医療を通じたつながりもある。町は昨年四月、総合老人福祉センターで夜間診療を始めた。AMDAの医師二人と地元医師一人が交代

が生まれ、町おこしにつながっている。「でも、

当初、「支援を決めたが

両者は地域医療を通じたつながりもある。町は昨年四月、総合老人福祉センターで夜間診療を始めた。AMDAの医師二人と地元医師一人が交代



被災地で雑炊を振る舞う岡山県加茂川町民  
—神戸市長田区で1月20日